

やすらぎだより

8
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第170号

「 20mの判断 」

施設長 植田 誠



思わぬ場面や予想だにしない状況に陥ると、人は冷静を装うとするが実は慌てふためく行いをしがちである。あとになって、あぁすれば良かったと反省するばかりである。そうしたことを私は度々経験する。

先月、東京の半蔵門という地下鉄での出来事。コロコロ（キャリーバッグ）を転がす？引？張る？運ぶ？正確な表現は知らないしそんなことはどちらでも良いが、何れにせよ持ちながら急いで階段を下りホームに着き、発車寸前の電車に飛び乗った。「間に合った」車両中央の座席に座り安堵したのもつかの間、その光景に驚愕した。そう、女性専用車両なのだ。

「何、このおっちゃんは？」と言わんとばかりの冷ややかな視線を浴びながらも、私は冷静を装うとした。「意図したことではない、誰にでもあることだ」と自らに言い聞かし、「見ての通りの旅人だ」とおもむろにコロコロを前に出しながら、隣の一般車両に移れば良いものを、何故か私は同じ車両の最後尾に移動してしまった。

車窓に目をやるものの街の光景などはない、真っ黒に流れる窓ガラスを見ながら私は決断に迫られた。次の駅で降りようか、三駅先の目的地までこのままでいようか、それとも今すぐコロコロを持ちながら前方20m先の別車両まで移動しようか。しかしそのためには、洗練された都会の淑女レディーの間を再度横切らなくてはならない。「こんなことなら、車両中央で気付いた時にすぐに前方車両に移れば良かった。7mで済んだのに」と悔やんでも後の祭り。20mの勇気がなく立ち尽くす私に、ガラス越しの女性乗務員さんはほくそ笑んでくれていた。

声を出さずに両手を合わせゴメンと軽く頭を下げると、首を横に振りながら「大丈夫です」と大きく口を動かされた。乗務員さんの優しさに後押しされ私は決断した。停車中に20mを堂々と前方車両に移動しよう。

混雑する一般車両の中で、流れる汗を拭きながら私は体感した。思わぬ出来事、予期せぬ事態はこれからも起こる。平静を装うことが重要ではなく、的確な判断を下すことが大切であるということ。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業